

# 応用行動分析に基づく生徒指導PBISを地域も巻き込んで展開する

## 荘内中学校PBIS研究会

### 活動の目的

インストラクショナルデザインに基づいてアメリカで成果を上げ、日本でも徐々に導入されつつある、応用行動分析を理論的景とするPBIS（Positive Behavioral Interventions and Supports 以下PBISと表記）を中学校から地域に広げていくときの工夫や留意点を研究する。PBISに中学校内で教員が取り組む前後の学校風土（学校の雰囲気、<http://stopijime.kodomolove.org/lp/>）を比較し、PBISの効果を確かめる。次にPTA役員や学校運営協議会員など地域の方がPBISに取り組む前後で学校風土を比較し、PBISの効果を確かめる。この取組の過程で、効果的な工夫や留意点を明らかにする。

### 活動の内容及び経過

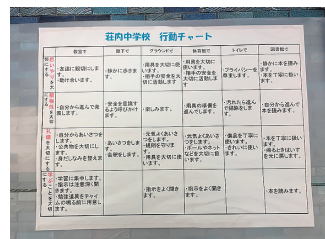
- 4月 荘内中学校PBIS研究会のメンバー（以下メンバーと表記する）が、荘内中学校職員向けの校内研修を実施し、応用行動分析学・SWPBIS（スクールワイドすなわち学校全体でのPBIS 以下SWPBISと表記する）について説明した。
- 5月 ベースライン確定のための学校風土調査を全校実施した。
- 6月 2月の校内研修で確認した4つの良い価値に基づく行動チャートに従い、教員がよい行いをした生徒にカード（Good behavior card 以下カードと表記する）を渡す取り組みを行った。カード10枚もらった生徒は、校長室で表彰した。
- 7月 PTA本部役員会で、メンバーから本部役員にSWPBISの取り組み内容の説明とカードを渡す取り組みに協力してもらうように依頼した。7月より地域でPTA本部役員がカードを渡す取り組みを開始した。以後学校と地域でSWPBISに取り組んだ。
- 12月 SWPBISの効果を確かめるための学校風土調査を全校で実施した。

### 活動の成果・効果

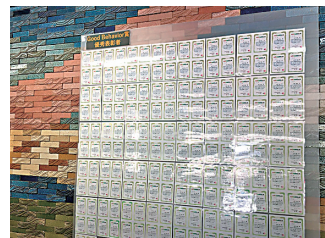
- 1 学校風土調査 SWPBISに取り組む前後で測定した学校風土調査（5件法アンケート）の結果、学校全体で統計的に有意差のある学校風土の向上があった。また学校風土の4側面（安全・教えと学び・関係性・環境）ともに向上が見られた。
- 2 教員アンケート また教員29名にSWPBISの効果を問うアンケートを実施したところ、すべての教員がSWPBISの教育的効果に概ね肯定的回答を行った。
- 3 PTA本部役員インタビュー PTA本部役員8人にインタ



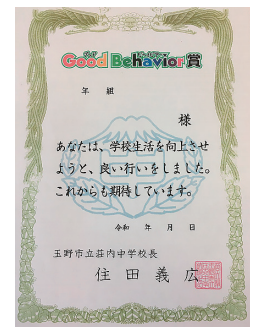
表彰式（校長室）



荘内中学校行動チャート（中学校玄関）



表彰状掲示（中学校玄関）



表彰状（カード10枚で表彰）

ビュー調査を実施したところ、SWPBISが生徒の自己肯定感を高めることや良い行動を無理なく引き出しているとの概ね肯定的回答を行った。

- 4 学校評価アンケート（保護者） 全保護者対象の学校評価アンケートの「先生は子どものよいところを認めてくれている」の項目で、令和2年度は前年度に対して統計的に有意差のある向上を示した。

### 今後の課題と問題点

SWPBISの実施で、学校風土の向上が見られ、教員やPTA役員を始め保護者のアンケートからもその教育的効果が高いことはわかった。しかし、地域全体にPBISを広めることができず、地域でPBISを実施しているのがPTA本部役員のみである。コロナ禍のため、令和2年度は学校運営協議会を実施できなかったこともあるが、令和3年度はより多くの地域の方にPBISの活動を広めたい。

また、研究の目的である「地域を巻き込んだPBIS実施時の留意点」について上記の理由より明らかにすることができなかった。令和3年度の課題となる。

- 代表者：福田聡 ●所在地：玉野市木目
- TEL：0863-71-1046 ●E-MAIL：udsfukuda@gmail.com
- 設立年：2019年 ●メンバー数：10名